GyouseiNews.Com The Gyousei Chosa Shimbun 行政調査新聞

＜国内情勢＞

# 見えはじめた

# 「新型コロナ終焉の日」

昨年初めから全世界を襲い、１億人という感染者数を出した新型コロナ。

首都圏では昨年４月に続いて今年１月８日から**「緊急事態宣言」**が発出されている。いったいコロナ騒動は、いつになったら終わるのか。

まだ数年は掛かるのではないか―。誰もがそんな不安の思いの中で生活しているが、**「まもなくコロナ騒動は終焉する」**という情報が転がり込んできた。

## 「新型コロナ感染者数」に対する疑問

埼玉県内の新型コロナ感染者数は、１月 18 日に突出して多い 1,015 人を記録したが、その後、翌 19 日 328 人、20 日と 21 日はともに 416 人、22 日 371 人と減少に向かい、25 日は 309 人だった。１月８日に過去最高の 2,447 人の感染者を出した東京も、18 日には 1,592 人、24 日 1,239 人と減少を見せ、25 日には今年最少の 618 人となっている。最大時の約４分の１だ。

このまま減少が続き、２月７日には**緊急事態宣言**が解除されるかもしれない。だが一方には、**「外出制限を続けて感染者ゼロに近づけよう」**との強硬論もある。新聞や週刊誌、テレビなどで情報を得ている人と、ネット情報中心の人とでは、意見も主張も異なっている。

情報過多の時代だから、新型コロナに関しては誰もが一家言を持つ。コロナ騒動が１年も続き、マスコミでもネット上でも、様々な主張が繰り広げられたから、もう聞き飽きたという人も多いだろう。

ここで改めて素朴な疑問を考えたい。**「感染者って、何？」**。

昔からたくさんの伝染病が人類を苦しめてきた。昭和 20～30 年代には**赤痢・疫痢**が流行ったこともある。男性諸氏の中には**淋病や梅毒**といった性病の伝染に気をつかった方がいたかもしれない。最近では**エイズ**（後天性免疫不全症候群）が恐怖をもたらした。**エボラ出血熱やサーズ**（重症急性呼吸器症候群）など、新しい感染症が発生したこともある。

それぞれの場合に**「感染者数」**が発表されることはなかった。発表されるのは**罹患者**（患者）数である。病気にかかった人の数だ。なぜ新型コロナだけは**「感染者数」**が発表されるのだろう。病原体が体内に侵入し、**繁殖**（増殖）して種々の病態が起きることを**「感染した」**という。

**感染者**とは、文字通りに解釈するなら、**「ウイルスが体内に入り、増殖して、病気を発生させた人」**を意味する。ところが新型コロナでは、**「感染者だが無症状」**という例が多い。新型コロナの場合に限って、**「無症状でも菌を持っているのは感染者」**という話がまかり通っている。これほど**「感染者数」**が多ければ、新型コロナのウイルスは、そこらにたくさんいるはずだ。

新型コロナのウイルスは、実はまだ完全には特定されていない。しかし、病気が発症するには、体内にウイルスが**10万個単位**で存在し、それが増殖する必要がある。10個とか100個、あるいは1,000個くらいのウイルスが体に付着していたからといって、それを**「感染者」**とするのはおかしな話なのだ。

その程度なら、平均的な免疫力をもっていれば撃退できるはずだ。

## 「ＰＣＲ検査の闇」

新型コロナが大騒動になって以来、**「PCR検査」**が重要になっている。PCRが陽性の人は**「新型コロナ感染者」**に認定される。つまり**「新型コロナ感染者数」**とは原則的に**「PCR検査陽性」**の人の数だ（死後に新型コロナ罹患が確認される場合もある）。**「PCR検査」**は全世界共通の検査だと考えている人が多いだろう。ところが世界各国の**PCR検査**には大きな差がある。どこに差があるかというと**「サイクルしきい値**（閾値）**」**が国によって大きく異なっているのだ。

といわれても、一般の人にはピンとこない。

PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）検査とはどんなものか。かかりつけの町医者に尋ねてみると、**百科事典やウィキペディア**（ネット上の事典）に書かれている内容しか話してくれない。総合病院の呼吸器科医に尋ねても変わりはない。

**サイクル値や閾**（しきい）値が何かと質問すると**「感染したかどうか調べるために、ウイルス遺伝子を増幅させるときの『増幅の度合い』です」**と、分かったような、分からないような答えしか返ってこない。

**PCR検査**で重要なのは、増幅する度合いなのだ。

増幅する度合いを**「サイクル値**（しきい値あるいはCT値とも）**」**という。

新型コロナの場合には、サイクル値を10に設定すると、**体内に1,000万個**のウイルスがあると**「陽性」**と判定される。

| |
|---|
| **サイクル値を20に設定すると、10万個のウイルスで陽性になる。** |
| **サイクル値を30に設定すると、1000個のウイルスで陽性になる。** |
| **サイクル値を40に設定すると、10個のウイルスで陽性になる。** |

つまり、サイクル値を 40 に設定した場合、僅か **10 個程度のウイルスの断片**があっただけで陽性と判定される。新型コロナを発病するのは、体内にウイルスが **10 万個以上ある場合**（**体内で増殖して 10 万個以上になった場合**）だ。

PCR のサイクル値は国によって異なる。台湾では 20 だが、米国では 40、日本は 40～45 と決められている。日本では異常なまでに増幅して、ちょっとでも新型コロナのウイルスが付着していれば**「PCR 陽性」**すなわち**「新型コロナ感染者」**と認定されてしまう。そんなに感染者を量産しても、世界と比較すると日本の感染者は少ない。

PCR のサイクル値が高いと、間違った判定が下されるのではないか。

PCR サイクル値を世界共通にすべきだという意見は、昨年春から巻き起こっていた。その声に応えて昨年 12 月 14 日に **WHO**（**世界保健機関**）は、やっと**「PCR サイクル値が高いと偽陽性になる」**ことを認め警告を発した。だがその警告が届かなかったのか、無視したのか、我が国では、**PCR サイクル値**はまだ変更されていない。

## 新型コロナ「陰謀論」と「真実」の狭間

新型コロナが猛威を振るうなか、世界中の専門家や医療ジャーナリスト、あるいは研究者たちが **PCR サイクル値**に関する論文を次々と発表するようになった。そもそも **PCR 検査法**の発明でノーベル賞を受賞した米国の生化学者キャリー・マリス博士自身、**「PCR は検査法としては無意味だ」「PCR を操ることで、誰の中からでも何でも見つけられる**（with PCR, if you do it well, you can find almost anything in anybody.）**」**と戒めていた。

昨年の夏には、**PCR サイクル値**が 33 あるいは 35 を超える検査は無意味だとの説が常識的になっていた。**WHO** が 12 月 14 日に下した警告は、遅すぎたほどだ。ところがなぜか、**米国ではサイクル値 40** が続けられ、**日本では 40～45** という高水準が保たれている。キャリー・マリス博士の言葉や、日米での高サイクル値を根拠として、**「新型コロナなど存在しない。陰謀だ」**というような説が出回っている。お耳にされた方も多いのではないだろうか。

ここで改めて申し上げておきたい。

**「新型コロナと呼ばれる伝染病」**は、間違いなく存在する。本紙の記者や関係者には、医学の専門分野に詳しい人間はいないから**「新型コロナ」**と断定はできないが、急激に症状を悪化させ、呼吸困難・意識混濁に陥った者が現実に存在している。一人は、40 代半ばの普通の健康体の男である。

昨秋のある朝、目が覚めて高熱があると自覚した。体温を測ると 38 度超。

何度か測ってみたが 37 度 8 分を下回らない。わずかに嗅覚障害・味覚障害を起こしている。**「風邪かもしれない。最悪の場合は新型コロナだ」**。

そう判断した彼は、勤務先に状況を伝え自宅に閉じ籠ることにした。その時点では、たいした症状はなかった。簡単な朝食、そして昼はインスタント・ラーメン。パソコンで仕事の段取りを整え、本を読んだりテレビを見たり。

普通の日常だった。異変は夕方に起きた。突然、呼吸が苦しくなり、意識が混濁し始めた。慌てて救急車を呼び、玄関のドアを開けたところで意識を失った。気がついた時には病院のベッドにいた。**エクモ**（人工呼吸器）のご厄介になり、２週間ほどの入院で、彼は復活できた。

本紙関係者の知人・友人などをくまなく調べてみると、他に２人ほど、同じように突然の呼吸困難や意識混濁に襲われた者がいた。発熱から２日後、３日後に前触れもなく一気に重症化したという。昨年末に亡くなった立民の羽田雄一郎議員も、12 月 24 日の夜に発熱、27 日に会合に出席した後、突然、胸の苦しみを訴え救急搬送されたが、夕方に病院で死亡が確認されている。

このような例は数多い。新型コロナと呼ばれる伝染病は、確かに実在する。

それは非常に少数だと思われる。**日本の PCR 検査**のサイクル値が 40～45 に設定されているから、実際の数の 10 倍以上、もしかしたら 100 倍くらいまで感染者数が増幅されている可能性が高い。**「新型コロナ感染者」**とされる人の多くは感染者ではないだろう。だからといって**「新型コロナなど実在しない」**と断定することはできない。

昨年 10 月 17 日にウクライナの**D･スチューツューク**（33 歳）が新型コロナで死亡した。彼は肉体美を誇る男性で、世界中に知られた**インスタグラマー**（写真共有サービス『インスタグラム』の有名人）でもあった。そんなスチューツュークは**「コロナウイルスなど実在しない」**と発信していたが、コロナにかかり入院することになった。病状が安定し、退院した２日後に容態が急転して死に至ったのだ。そんな彼は最後にこんなメッセージを世界に送りつけている。

**「私自身が病気になるまで、コロナウイルスなど存在しないと考えていました。新型コロナ感染症は一過性のものではありません。これは重い病気なのです」。**

## 新型コロナ騒動が「終焉する日」

整理する必要がある。新型コロナなど実在しないと主張する学者がいる。

彼らは医学的見地に立って、新型コロナウイルスは特定されていないから実在しないと主張する。顕微鏡の奥の専門的な話は、こちらには理解できない。

だがその実体が、そこら中に存在するウイルスの異質同体であろうが、強い伝染力を持ち、死をもたらす病気であることは確かだ。

医学論争は学問の世界で論戦して頂きたい。病気の正体が何であれ、突然急変して重症化し、場合によっては死に至る病気が世界中で蔓延しているのだ。

世界中が新型コロナを恐れて都市封鎖をやり、人の往来が極端に制限され、社会が破壊されている。私たち庶民大衆は、医学論争に付き合うつもりはない。問題は、どうやってこの異常事態から脱出するか、脱出するためには何を求めればいいか、そして最大の問題は、この**新型コロナ騒動の終焉**の先に何があるか見極めることだ。

世界中の多くの政府は、新型コロナ対策として莫大なカネを配りまくった。

それでも大打撃を食らい、立ち直れない業種や企業がいくつも出現した。生きる希望を失った人々もいる。冷酷に突き放せば、不要なものは存続が否定されているのだ。余計な贅肉（**ぜいにく**）が切り捨てられているのだ。

こう書くと、激怒する人もいるだろう。傷口に塩を塗られたように感じる方もいるかもしれない。感情を逆なでしたことに対しては謝罪するが、本紙の主張は**「先を見通せ」**というところにある。

**「冬来たりなば春遠からじ」「明けない夜はない」**コロナ騒動は必ず終わる。

終わった後に何をするか。そのスタート点に立ち、未来を見つめることが最も重要なのだ。それでは、**いつ春が来るのか。いつ夜が明けるのか。**

世界銀行は新型コロナに関する予算を 2024 年春まで組んでいるという。

世銀の見通しは、最大に長引いて 2024 年春ということのようだ。３年も先ではないか。そんなに待ってられるか！と声を荒げる方もいるだろうが、それは最大に長引いた場合だ。

昨年 12 月に、**PCR サイクル値**が高いと偽陽性が出ることを認めた **WHO** は、**PCR サイクル値**を世界共通の**「20」**に統一しようと動き始めたという情報が流れ始めている。決定までには、まだ時間がかかるだろうが、その方向性は日本政府にも伝わっているはずだ。今日、世界では異常なほどに高いサイクル値をとっていた**日本の PCR 検査**は、近々サイクル値を下げざるを得なくなる。

これまで **PCR サイクル値 40～45 の設定**でも世界的に見て異常に少なかったコロナ感染者数は、この先、一気に激減する可能性が高い。台湾と同等のサイクル値 20 にすれば、日本の感染者数は現在の 10 分の 1 以下になるはずだ。

そうなれば日本は劇的に変わっていく。それは**「元に戻る」**ことを意味しない。新しい世界が始まる。今、私たちがやることは、生まれ変わった日本で何をするかだ。もう一度、**贅肉**（**ぜいにく**）を作ろうなどと考えてはいけない。

**新しいチャンスが巡ってくると考えるべきだろう。**

新しく生まれ変わる日本で活躍できる者とは、どんな人か。新しい世界で、何を求めるべきなのか。考える時間は、まだ少し残されている。■